



2019年10月26日～2019年11月1日

2019年11月5日

先週の回顧

ブラジル・レアルは、一週間を通して見ると、対円、対米ドルともに概ね横ばいの推移となりました。また、2年国債金利は上昇しました。

ブラジル中央銀行が10月30日（現地）に政策金利を0.5%引き下げ、5.0%としたことが金利低下、ブラジル・レアル安要因となりました。一方、今後の金融政策の見通しについては、12月には今回と同程度の利下げ実施を示唆したものの、2020年以降についてはややタカ派的な見通しが示されました。予想外のタカ派コメントに市場が反応したことで、週末にかけて金利上昇、ブラジル・レアル高となりました。

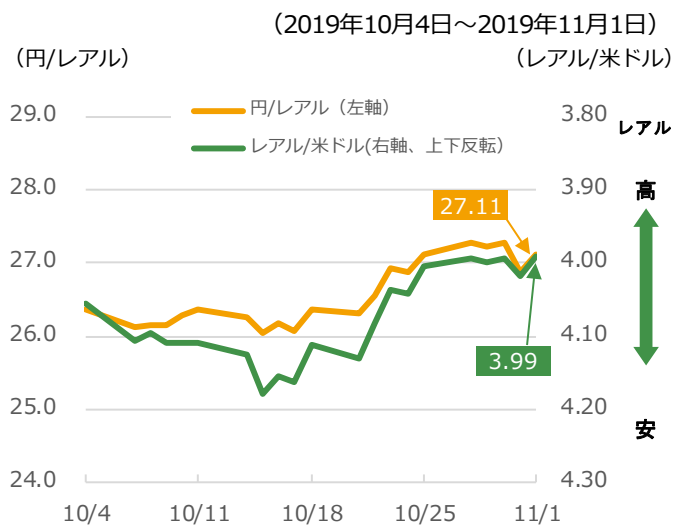
経済指標に関しては、9月の鉱工業生産や10月の製造業PMI（購買担当者指数）が発表されました。鉱工業生産は前月・前年比ともに市場予想を下回り、製造業PMIも前月から低下しましたが、景況感改善の継続が示されていることから、ブラジル経済は低位ながらも緩やかに回復しているとみられています。

今週の見通し

今週はIPCAインフレ率やサービス業PMI（購買担当者指数）などの経済指標の発表が予定されています。

市場予想に反し、ブラジル中央銀行は2020年以降の政策金利引き下げについて否定的な見通しを示しました。しかし、インフレ率の低下がさらに進行した場合には、さらなる利下げを行わざるを得ないとみています。今後の中央銀行の政策を占う上で今週のIPCAインフレ率は注目材料となりそうです。

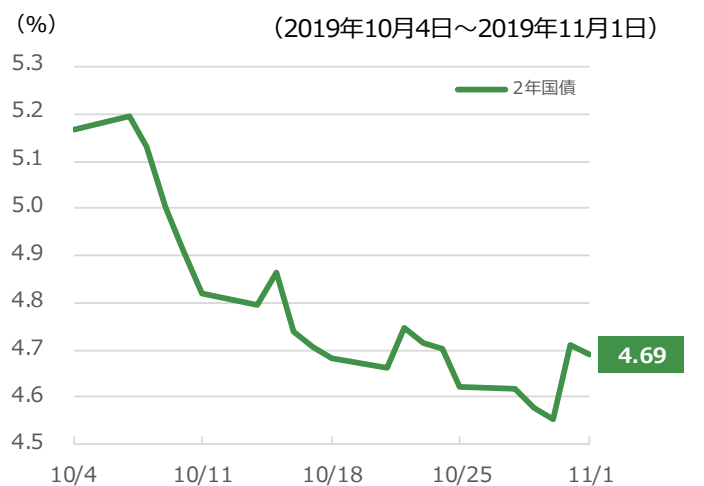
ブラジル・レアル 為替推移



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

ブラジル 金利推移



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和投資信託が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。